

Q

アレルゲンの見つからない  
血管運動性鼻炎。  
改善方法は?

A

治療は抗ヒスタミン薬の内服薬や点鼻薬などを使用。  
鼻詰まりがつづく場合には、レーザー治療を行うことも

回答者



自由が丘耳鼻咽喉科  
笠井クリニック(東京都)院長  
笠井 創

くしゃみ、鼻水、鼻詰まりがくり返される状態を鼻過敏症といいます。鼻過敏症の原因のほとんどは、アレルギーが関与して発症するアレルギー性鼻炎で、近年、その増加が注目されています。アレルギー性鼻炎には、1年中症状のある通年性のものと、特定の季節におこる季節性のものがあります。アレルギーの原因となる異物を抗原といいますが、通年性アレルギー性鼻炎の主な抗原には、ダニ、ペットの毛やフケなど

があり、季節性アレルギー性鼻炎の代表はスギ花粉症です。

一方、鼻過敏症のなかには、いろいろな検査をしてもアレルギーの原因となる物質が検出できないものがあります。そのようなアレルギーの関与が認められない鼻炎の一つに「血管運動性鼻炎」があります。原因がわからないことから「本態性鼻炎」ともいわれます。

血管運動性鼻炎の特徴としては、季節の変わり目の寒暖差

しゃみとともに水様性の鼻汁が出ます。中年以降の女性に比較的多いとされ、過剰なストレスなどが引き金になります。これは、自律神経の一つである副交感神経が、鼻粘膜で過剰に反応するためと考えられています。男性でも60歳以上になると、老人性鼻炎と呼ばれる血管運動性鼻炎と同じ症状がおきることがあります。

血管運動性鼻炎の症状はアレルギー性鼻炎と変わらないため、治療もほぼ同じように行われます。鼻水を抑えるために抗ヒスタミン薬の内服薬や点鼻薬を使用し、鼻詰まりにはステロイド点鼻薬を併用します。鼻詰まりがつづく場合には、薬だけでは改善できないため、鼻のレーザー治療を行うこともあります。下鼻甲介粘膜をレーザーで焼灼することで鼻粘膜が縮小し、これによつて鼻詰まりの改善が期待できます。

50歳、女性。1年前に、くしゃみや鼻水といった花粉症のような症状が出ました。耳鼻科でアレルギー検査を受けたところアレルゲンは見つからず、血管運動性鼻炎と診断されました。1年を通じて症状が出て、そのたびに薬をのんでいますが、夜間に鼻が詰まることが多い寝苦しいです。改善方法はありませんか。

(富山県 一)

## 下鼻甲介粘膜焼灼術の症例

下鼻甲介粘膜の腫れによる鼻閉(鼻詰まり)には、レーザーによる下鼻甲介粘膜焼灼術を行うことにより改善が期待できる。

●レーザー治療前(右鼻腔内)



●レーザー治療2カ月後

